



NHK
for
School

校内放送研究

第72回**NHK**杯

全国高校放送コンテスト
ならびに校内放送活動研究集会

要 項

全国放送教育研究会連盟

No. **195**
2025.3

NHK

第 72 回 **NHK** 杯全国高校放送コンテストならびに校内放送活動研究集会要項 目 次

開催要項	・・・	1
参加規程	・・・	2
都道府県担当者運営要領	・・・	3
日程一覧	・・・	4
72 コンテスト変更・追加・注意点	・・・	5
規程および審査について		
アナウンス部門	・校内放送活動研究集会（研究講座）Ⅰ	・・・ 6
朗 読 部 門	・校内放送活動研究集会（研究講座）Ⅱ	・・・ 7
ラジオドキュメント部門	・校内放送活動研究集会（研究講座）Ⅲ	・・・ 8～9
テレビドキュメント部門	・校内放送活動研究集会（研究講座）Ⅳ	・・・ 10～11
創作ラジオドラマ部門	・校内放送活動研究集会（研究講座）Ⅴ	・・・ 12～13
創作テレビドラマ部門	・校内放送活動研究集会（研究講座）Ⅵ	・・・ 14～15
校内放送研究発表会	校内放送活動研究集会 Ⅶ	・・・ 16～17
番組制作について	・・・	18
様式 1	アナウンス・朗読部門原稿用紙（見本）	・・・ 19
様式 3	テストパターン（見本）	・・・ 19
様式 2－1	番組進行表 表紙（見本）	・・・ 20
様式 2－2	CUE シート（見本）	・・・ 20
様式 2－3	権利処理一覧表（見本）	・・・ 21
様式 2－4	音源使用許諾申請書及び回答書（見本）	・・・ 21
様式 2－5	取材許諾・著作物等ご提供のお願い及び許諾書（見本）	・・・ 22
「ご協力のお願い」（見本）	・・・	22
様式 2－6	提出前チェック表	・・・ 23
様式 4－1	研究発表 進行表 表紙（見本）	・・・ 24
様式 4－2	研究発表 CUE シート（見本）	・・・ 24
様式 4－6	提出前チェック表（研究用）	・・・ 25

NHK 杯全国高校放送コンテスト Web サイトのご案内

https://hosokyoiku.jp/ncon_h/
（放送教育ネットワーク Web サイト内）



全国高校放送コンテスト委員会では、各部門で使用する指定の様式、著作権処理の説明、今までのコンテストの記録やお知らせなどを上記 Web サイトで公開しています。



www.nhk.or.jp/event/n-con/

放送コンテストのNHK公式Webサイト「NコンWEB」では、放送部の活動のためになる情報や、楽しんでいただけるコンテンツを充実し、随時発信していきます。



いま、学校のためにNHKができること
NHK for School Web サイト

（www.nhk.or.jp/school/）



国語や算数、理科、社会など
学びに役立つ教育番組や動画クリップが
およそ 10,000 本ある動画教材配信サービスです。



高校生の「学び」をサポートする
「NHK 高校講座」

（www.nhk.or.jp/kokokoza/）



放送日程や各回の内容、
学習に役立つ資料・映像、音声などを
ストリーミング配信しています。

1. 目 的

現代に生きる高校生の豊かな人間性の育成と、未来への展望をもつ人間としての成長をめざし、校内放送活動をメディアリテラシーの実践として位置づけ、情報発信としての放送活動の発展をはかる。

2. ねらい

- (1) 美しく豊かな日本語を大切にすること、あわせて話す力、表現する力を高める。
- (2) 情報発信者としての自覚を高め、あわせて創造性を育てる。
- (3) 社会との関わりに目を向け、放送の果たす役割を学ぶ。
- (4) 人間尊重の心を培い、国際理解を深める放送の働きを確かめる。
- (5) 学園生活の中にうらおいを育て、心のふれあいの場をつくる。

3. 研究主題（統一テーマ）

「私たち高校生と放送」

高校生の連帯、先生方とのきずな、地域や社会への結びつきを、日常生活の中で考え、主体的に放送活動に展開すること。

4. 主 催

全国放送教育研究会連盟・**NHK**
(NHK 杯全国高校放送コンテスト委員会)

5. 共 催

公益社団法人 全国高等学校文化連盟
一般財団法人 NHK 財団

6. 後 援

文部科学省
全国高等学校長協会
日本私立中学高等学校連合会
一般社団法人 日本放送作家協会

7. コンテストの各部門

- (1) アナウンス
- (2) 朗読
- (3) ラジオドキュメント
- (4) テレビドキュメント
- (5) 創作ラジオドラマ
- (6) 創作テレビドラマ

8. 審査員

NHK 専門職審査員と全国放送教育研究会連盟が推薦する者が審査にあたる。

9. 表 彰

部門	アナウンス	朗読	ドキュメント		創作ドラマ	
			ラジオ	テレビ	ラジオ	テレビ
優 勝	1	1	1	1	1	1
	NHK 杯 NHK 会長賞状 文部科学大臣賞状				日本放送作家協会 賞品	
準優勝	1	1	1	1	1	1
	NHK 会長賞状・トロフィー					
優 秀	2	2	2	2	1	1
	全放連理事長賞状・楯					
優 良	6	6	6	6	2	2
	全国高校長協会・私立中高連合会賞状・楯					
入 選	50	50	10	10	5	5
	全国高校放送コンテスト委員長賞状					
	メダル		楯			
制作 奨励			20	20	10	10
			全国高校放送コンテスト委員長賞状			

10. 校内放送活動研究集会

各部門の発表に加え、各部門の準決勝終了後に、審査員による研究講座（Ⅰ～Ⅵ）を行う。

また校内放送活動から学んだことや、校内放送のアイディアなどを発表する機会（Ⅶ）を設ける。研究集会Ⅶで発表した学校には、研究奨励を授与する。

11. 日 程

- 7 月 21 日（月）総合受付
- 7 月 22 日（火）全部門 準々決勝
- 7 月 23 日（水）全部門 準決勝・研究講座
校内放送研究発表会
- 7 月 24 日（木）全部門 決勝

12. 会 場

国立オリンピック記念青少年総合センター
東京都渋谷区代々木神園町 3-1
TEL 03-3469-2525
(7 月 21 日～23 日)

NHKホール 東京都渋谷区神南 2-2-1

TEL 03-3465-1751
(7 月 24 日・決勝)

13. 連絡先

問い合わせは、都道府県担当者を通じて、P 3 の 6. に掲載されている問い合わせ先にしてください。コンテストに関わる連絡は、**直接会場にしないでください。**

1. コンテストに応募できるのは下記の学校とする。

- ・高等学校及び中等教育学校の後期課程
- ・特別支援学校の各高等部
- ・高等専門学校（第3年次までの生徒）
- ・専修学校及び各種学校（修業年限が高等学校と一致していること）

2. 参加資格

- (1) 2025 年 7 月現在、上記の学校・専修学校・各種学校に在籍中の生徒及びその作品であること。
- (2) 各部門への参加は、都道府県高等学校放送教育研究会（視聴覚教育研究会を含む）あるいは高等学校文化連盟の推薦による。
- (3) 番組制作の各部門及びアナウンス部門の内容は、高校生のオリジナルに限る。また、他のコンテスト・コンクール等に参加した作品及びそれを改変・改編した作品の参加は認めない。
- (4) 参加校の顧問は、コンテストの審査・運営に携わることを条件とする。

3. エントリー数〔都道府県推薦数〕

アナウンス部門	6 名
朗読部門	6 名
ラジオドキュメント部門	4 作品
テレビドキュメント部門	4 作品
創作ラジオドラマ部門	2 作品
創作テレビドラマ部門	2 作品
校内放送研究発表会	2 校

※アナウンス・朗読部門は 1 名 1 部門とし、番組は 1 部門に 1 校 1 作品とする。

※前回の都道府県大会の参加校数が 100 校を超える都道府県は 2 倍まで可とする。

※都道府県推薦数は上記の限度内において有効に利用されたい。フルエントリーが望ましいが、特定の学校に推薦が偏らないように配慮すること。

4. 参加費

アナウンス部門 朗読部門	1 名につき 5,000 円
ラジオドキュメント部門 テレビドキュメント部門 創作ラジオドラマ部門 創作テレビドラマ部門	1 作品につき 8,000 円
校内放送研究発表会	1 校につき 4,000 円

5. 当コンテストに参加する作品は放送されることを前提として制作すること。また、著作権等を含む許諾関係については所定の様式を用いて必要な権利を各校の責任において確保しておくこと。

6. 応募された参加作品（以下「応募作品」という。）の著作権は、制作者（応募した学校）に帰属する。

- ・当コンテストに応募した段階で、主催者が行う放送（Web 等での映像配信サービスを含む）、イベントでの上映、Web サイト・印刷物への掲載等について、応募作品の利用（業務上の必要により編集、切除その他の改変を行うことも可）を許諾したものである。
- ・当コンテストの応募作品、原稿、番組進行表は、コンテスト決勝終了（7 月 24 日）まで、他で公開することができない。
- ・応募作品を他に利用する際は、利用に関わる一切の責任は制作者が負うことになり、主催者は責任を負わない。

※応募にあたって

学校は、生徒に対して次のことを周知する。

- (1) 学校単位での応募であること。
- (2) 主催者による応募作品の利用範囲が上記のものであること。

また、アナウンス・朗読部門に参加する生徒に対しては、コンテスト実施中に録音・録画がなされ、それらも上記範囲で利用されることを周知する。

※応募作品内で使用されている音源について

主催者は、応募作品内で使用されている「第三者がレコード製作者の権利を有する音源」を抜き出して他の用途に使用しない。

7. NHK 杯全国高校放送コンテストにおける個人情報の取り扱いについて

I. 利用目的

コンテストで収集した個人情報については下記の目的に使用する。

- ①参加校との連絡などコンテストの実施・運営
- ②主催者が行う放送（国内・海外）
- ③主催者が行う Web 等での映像配信サービス
- ④主催者が行うイベントでの上映・Web サイト・印刷物への掲載
- ⑤決勝大会入賞者氏名・入賞校名については主催者が管理する Web サイト上に無期限で掲載

II. 共同利用について

コンテストで収集した個人情報については主催者である全国放送教育研究会連盟と NHK で共同利用する。

- (1) 共同して利用される個人データの項目
 - ・生徒の氏名、学校名、学年、写真
 - ・顧問の氏名、学校名、電話番号、FAX 番号、メールアドレス
 - ・各都道府県地区研究会の代表者及び研究会が委嘱する担当者・審査員の氏名、学校名、電話番号、FAX 番号、メールアドレス
- (2) 共同して利用する者の範囲
全国放送教育研究会連盟、NHK
- (3) 管理責任者
全国放送教育研究会連盟、NHK

※なお、各コンテスト会場には NHK などの取材が入り、会場内の様子がニュースや番組・ホームページ等で紹介される場合があります。ご了承ください。

8. 原稿・作品・番組進行表の提出締切

原稿・作品・番組進行表の提出締切については、都道府県担当者の指示に従うこと。

1. 都道府県担当者の任務

- (1) 2025 年 3 月に発行される要項(この冊子)の内容について、参加校に周知する。
- (2) 全国大会運営に関わって、必要に応じて運営委員、会場係、審査員を選出・派遣する。
※該当する年には審査部員も選出・派遣する。
- (3) 全国大会への推薦に際しては、参加規程に合致しているかどうか、また、各学校から提出される必要書類の有無を確認する。
- (4) エントリー提出締切を遵守する。
- (5) 参加費を期日までに振り込む。
- (6) その他、コンテスト運営委員会からの連絡を都道府県内に周知する。
- (7) 参加校からのコンテストに関する問い合わせを、都道府県を代表して行う。

2. 推薦に際して

都道府県担当者はアナウンス・朗読の原稿、番組進行表などが**参加規程・各部門規程に合致しているか、内容を確認の上、推薦すること。様式 1 の表紙・様式 2 - 1・様式 4 - 1 の表紙に内容を確認したチェックを入れること。**
※様式は、所定の用紙をコンテストの Web サイトからダウンロードして使用すること。

3. エントリー提出締切

都道府県からの各部門の推薦および校内放送研究発表会の要旨の提出は、
2025 年 6 月 27 日（金）必着とする。

4. 参加費について

参加費については、都道府県担当者が取りまとめ
2025 年 6 月 27 日（金）までに指定口座に振り込むこと。

5. 原稿・作品・番組進行表の提出

都道府県担当者は、以下のものを

2025 年 7 月 2 日（水）までに提出する

（提出方法については 5 月下旬に連絡する）。

- ・番組部門の作品データ
- ・番組進行表のデータ
- ・校内放送研究発表会の発表データ（発表で使用する PowerPoint データ）、および研究発表進行表のデータ、PowerPoint の PDF データ

また、以下のものを **2025 年 7 月 4 日（金）正午**までに事務局へ郵送する。

- ・アナウンス・朗読部門の原稿（2 部）
- ・番組部門の番組進行表（1 部）
- ・校内放送研究発表会の研究発表進行表（1 部）

学校あるいは個人の直接の申し込み、及び作品の直送は受け付けない。**提出後のタイトル・原稿などの変更は認めない。**

6. 問い合わせ先

都道府県担当者を通じて問い合わせること。

〒158-0097

東京都世田谷区用賀 4-10-1

世田谷ビジネススクエアタワー 16F

一般財団法人 NHK 財団 展開・広報事業部内

NHK 杯全国高校放送コンテスト事務局

TEL : 03-5797-6707

E-Mail : ncon@nhk-fdn.or.jp

7. 審査部員について

ブロック選出審査部員体制を継続する。

第 72 回の審査部員担当は

山形、長野、岐阜、京都、高知、沖縄とする。

審査部員のブロックは以下の通り。各ブロック先頭から順番で選出するものとする。ただし、コンテストの運営部に所属する人員を擁している道府県を除く。また、総合文化祭開催都道府県に配慮する。

〔北海道・東北 ブロック〕

北海道、青森、秋田、岩手、山形、宮城、福島

〔関東・甲信越 ブロック〕

茨城、群馬、栃木、山梨、新潟、長野

〔東海・北陸 ブロック〕

静岡、愛知、三重、岐阜、富山、石川、福井

〔近畿 ブロック〕

滋賀、京都、奈良、和歌山、大阪、兵庫

〔中国・四国 ブロック〕

岡山、広島、鳥取、島根、山口、香川、徳島、愛媛、高知

〔九州・沖縄 ブロック〕

福岡、佐賀、長崎、大分、熊本、宮崎、鹿児島、沖縄

第72回 **NHK** 杯全国高校放送コンテストならびに校内放送活動研究集会 日程一覧

	7月21日(月) 総合受付	7月22日(火) 準々決勝		7月23日(水) 準決勝		7月24日(木) 決勝
	総合受付 14:00～17:00 センター棟 102号室	総合案内 9:30～18:00 センター棟 109号室		総合案内 9:30～17:00 センター棟 109号室		総合案内 9:00～17:00 NHK ホール 入口
アナウンス・朗読		ABC会場 センター棟 A会場 101号室 B会場 102号室 C会場 501号室	DEF会場 センター棟 D会場 101号室 E会場 102号室 F会場 501号室	アナウンス部門 出場受付 9:00～9:10 開会行事 9:10～9:30 審査 9:30～12:05 センター棟 417号室	研究講座Ⅰ・Ⅱ 17:00～17:50 センター棟 417号室	
		開会行事 (アナ・朗合同) 9:00～9:20	開会行事 (アナ・朗合同) 13:40～14:00	朗読部門 出場受付 12:50～13:00 開会行事 13:00～13:20 審査 13:20～16:40 センター棟 417号室		
		審査(朗読) 9:20～11:35 審査(アナ) 11:40～13:30	審査(朗読) 14:00～16:15 審査(アナ) 16:20～18:10	モニター室 309号室		
発声練習	13:00～17:00 カルチャー棟 リハーサル室	8:30～17:00 カルチャー棟 リハーサル室		8:30～17:00 カルチャー棟 リハーサル室 センター棟 416号室		9:00～17:00 NHK ホール
ラジオドキュメント		開会行事 9:00～9:20 AB会場 401号室 発表 9:20～17:15 CD会場 402号室 センター棟 EF会場 403号室 GH会場 405号室 EF会場モニター室 センター棟304号室 GH会場モニター室 センター棟513号室	出場受付 9:00～9:10 開会行事 9:10～9:30 審査 9:30～16:00 センター棟 101号室	研究講座Ⅲ 16:10～17:00 センター棟 102号室		
			モニター室 センター棟 102号室			
テレビドキュメント		開会行事 9:00～9:20 AB会場 416号室 発表 9:20～18:05 CD会場 309号室 センター棟 EF会場 310号室 GH会場 311号室	出場受付 9:00～9:10 開会行事 9:10～9:30 審査 9:30～16:40 カルチャー棟 大ホール	研究講座Ⅳ 16:50～17:40 カルチャー棟 大ホール		
創作ラジオドラマ		開会行事 9:00～9:20 発表 9:20～18:05 AB会場 センター棟417号室 CD会場 国際交流棟国際会議室	出場受付 13:10～13:20 開会行事 13:20～13:40 審査 13:40～16:50 カルチャー棟 小ホール	研究講座Ⅴ・Ⅵ 17:00～17:50 カルチャー棟 小ホール		
創作テレビドラマ		開会行事 9:00～9:20 発表 9:20～18:05 AB会場 大ホール カルチャー棟 CD会場 小ホール	出場受付 9:00～9:10 開会行事 9:10～9:30 審査 9:30～12:40 カルチャー棟 小ホール			
			モニター室 センター棟 501号室			
校内放送研究発表会		発表前機材チェック センター棟 404号室		研究集会Ⅶ 研究発表・交流会 8:45～17:50 センター棟310・311号室		

1. 番組進行表について

- (1) 提出前チェック表(様式 2-6)の提出が必要になりました。
「提出前のチェック項目」が「提出前チェック表」(様式 2-6)という名前に変わり、番組進行表の一部として提出が必要になりました。必ず添付してください。
- (2) 表紙(様式 2-1)に、「提出データ詳細」と「様式 2-6 提出前チェック表」の記入欄が加わりました。「提出データ詳細」に、①ファイル形式、②データ量を必ず記入してください。テレビドキュメント部門と創作テレビドラマ部門は、③解像度、④フレームレート(fps)も必ず記入してください(日本でのテレビ放送を想定しているコンテストであるため、フレームレートは、29.97fps(30fps)のみです)。

2. 「番組部門制作関連資料」の名称変更について

「番組部門規程 細則」と名称を変えました。熟読した上で、作品を制作してください。

3. 校内放送研究発表について

- (1) 72 回から PowerPoint のアニメーション機能を使用できるようになりました。
- (2) 発表用 PowerPoint はフォントの埋め込み処理を行ってください。フォントの埋め込みを行うとデータ量が大きくなるので、データ量の上限を 200MB から 300MB に引き上げました。
- (3) 番組進行表が「研究発表進行表」と名称が変わりました。研究発表参加校は、様式 4 を使用してください(様式 2 はラジオ・テレビ部門用になります)。また、「様式 4-6 提出前チェック表(開発用)」も必ず提出してください。
- (4) 7 月 22 日(火)に「発表前機材チェック」を実施します。発表校は必ず参加してください。各校の機材チェックの時間は参加申し込み後、NHK 杯全国高校放送コンテスト Web サイトで発表します。発表校は指定された時間に会場に集合してください。

4. 都道府県担当者の作業変更に伴う注意点について

各都道府県担当者の作業が、「提出物チェック」から「提出物の確認」になりました。そのため、以下の流れに変更になります。各参加校は、公開での発表を妨げるようなことのないよう、書類の不備等に、より一層注意を払うようにしてください。心配な場合は、各都道府県担当者にご相談ください。

- (1) 参加校は、「番組部門規程 細則」を熟読の上、各学校が責任を持って、著作権や肖像権などの許諾処理を適切に行い、必要な提出物をすべて用意してください。
- (2) 各都道府県担当者は、提出物を受理した後、必要書類が揃っているかどうかを確認してください。

5. 番組部門の準々決勝審査について

番組部門では、準々決勝審査を事前に行い、7 月 22 日(火)の会場で作品の発表を行います。準々決勝審査結果の発表は、準決勝の 7 月 23 日(水)朝に行います。

6. 発表会場への入場について

発表会場への入場は顧問・関係生徒に限ります。保護者、OB・OG、一般参加者などは入場できません。

1. アナウンス部門規定

- (1) アナウンスする内容は、自校の校内放送に使用するものとし、原稿を生徒が自作したものに限り、
- (2) アナウンスのはじめに、番号と氏名を読むこととし（学校名は読まない）、時間はそれらを含め、**1分10秒以上1分30秒以内**とする。
- (3) 事前に提出するアナウンス原稿は、ダウンロードした様式1に従い、**仕上がりA5判で2部**（コピー可）作成する。

2. 審査基準

- (1) 研究主題「私たち高校生と放送」のテーマに沿った内容となっており、自校の校内放送に使用する内容であること。
- (2) 審査の視点
 - a. 内容
 - (ア) 素材の選び方は適当であるか。
 - (イ) 文章表現は適当であるか。
 - b. アナウンスの技術
 - (ア) 自然な発声で聞き手に伝わるようにアナウンスしているか。
 - ・発声 ・発音 ・マイクの使い方
 - (イ) 正しく意味を伝える表現ができているか。
 - ・内容把握 ・イントネーション
 - ・言葉の立て方（プロミネンス）
 - ・アクセント
 - (ウ) 間（ポーズ）は適切か。
 - ・テンポ ・ポーズ
- (3) 点数は100点法とし、aとbの項に留意して総合的に採点する。

3. 参加申込および原稿の提出

出場者は、都道府県担当者の指示に従うこと。
提出後の原稿の変更は認めない。なお、提出された原稿は返却しない。

4. 準々決勝

- (1) 出場者は、A・B・C・D・E・Fの6会場に分かれて、エントリー番号順に、事前に提出した原稿をアナウンスする。
 ※エントリー出場ブロックごとに集合点呼を行う。Webサイトとプログラム号で発表される**集合点呼時刻厳守**。この点呼に遅れた場合は**失格**とする。
- (2) 審査は、都道府県研究会が推薦する者とコンテスト委員会が推薦する者をあわせ、各会場6名で行う。

- (3) 順位は、各会場6名の審査員の最高点、最低点を除いた400点満点とし、会場ごとに合計点の高い順に決定する。
- (4) 各会場から上位10名、計60名を準決勝出場者として推薦する。

5. 準決勝

- (1) 準決勝出場者は、準々決勝と同じ原稿に続けて、**プログラム号に載る課題文**をアナウンスする。
 ※準決勝進出者一覧に発表される**集合点呼時刻厳守**。この点呼に遅れた場合は**失格**とする。
- (2) 審査は、準々決勝（2）と同様の審査員5名とNHKアナウンサー1名（専門職審査員）の計6名で行う。
- (3) 順位は、専門職審査員の点数と、他の審査員5名の最高点、最低点を除いた400点満点として、合計点の高い順に決定する。この際、準々決勝の得点を参考にしない。
- (4) 準決勝出場者60名から、上位10名を決勝出場者として推薦する。

6. 校内放送活動研究集会（研究講座）Ⅰ

朗読部門の準決勝終了後、アナウンス部門の研究講座を行う。（朗読部門と合同）

7. 決勝

- (1) 決勝出場者は、準々決勝と同じ原稿に続けて、**プログラム号で指示する決勝課題**をアナウンスする。
- (2) 審査は、主催者が委嘱する者で行う。
- (3) 順位は、審査員の順位集計で以下の通りに決定する。
 優勝1 準優勝1 優秀2 優良6
 この際、準決勝の得点や順位を参考にしない。

8. 規定違反について

コンテストの規定に対して違反があった場合は、失格も含め減点の対象とする。なお、重大な違反が判明した場合には、コンテスト終了後においても賞の取り消しをすることがある。規定違反の例としては、発表が提出原稿と違う、他の著作物の盗用、不適切な表現、著作権処理の不備、時間規定違反などがあげられる。

1. 朗読部門規定

- (1) 次の指定作品の中から 1 編を選び、自分の表現したい部分を抽出して朗読する。作品の改変は認めない。**※抽出は文頭から開始し、文末で終了とすること。一文途中の開始や終了は改変とみなす。本文中の () 内も読むこと。(読み仮名・注を除く)**

朗読指定作品

- 1) 「潮騒」 三島 由紀夫 著 (新潮文庫)
 2) 「一色一生」 志村 ふくみ 著 (講談社文芸文庫)
 3) 「推し、燃ゆ」 宇佐見 りん 著 (河出文庫)
 4) 「不思議な少年」 マーク・トウェイン 著
 中野 好夫 訳 (岩波文庫)

5) 「世間胸算用」 井原 西鶴 (出版社は問わない)
注意 電子書籍不可。1) は令和 2 年 11 月 1 日新版以降のものとする。2) は収録作品のいずれを選んでも良い。4) は他の出版社、翻訳者のものは不可。5) は現代語訳不可。

- (2) 朗読のはじめに、番号、氏名、作者名(訳者名は読まない)、作品名を読むこととし(学校名は読まない)、時間はそれらを含め **1 分 30 秒以上 2 分以内** とする。
 (3) 事前に提出する朗読原稿は、ダウンロードした様式 1 に従い、**仕上がり A 5 判で 2 部(コピー可)作成する。指定作品 1) ～ 4) については原稿表紙に抽出部分の開始ページを記入する。**

2. 審査基準

- (1) 審査の視点
 a. 内容
 (ア) 作品の選定は適当であるか。
 (イ) 抽出部分は適切か。
 b. 朗読の技術
 (ア) 内容表現上、声の出し方や言葉の運びが自然で適切か。
 ・発声 ・発音 ・マイクの使い方
 (イ) 正しく意味を伝える表現ができているか。
 ・内容把握 ・イントネーション ・言葉の立て方(プロミネンス) ・アクセント
 (ウ) 間(ポーズ)は適切か。
 ・テンポ ・ポーズ
 (2) 点数は 100 点法とし、a と b の項に留意して総合的に採点する。

3. 参加申込および原稿の提出

出場者は、都道府県担当者の指示に従うこと。
提出後の作品、抽出部分の変更は認めない。なお、提出された原稿は返却しない。

4. 準々決勝

- (1) 出場者は、A・B・C・D・E・F の 6 会場に分かれて、エントリー番号順に、事前に提出した原稿を朗読する。**※エントリー会場のブロックごとに集合点呼を行う。Web サイトとプログラム号で発表される集合点呼時刻厳守。**この点呼に遅れた場合は**失格**とする。
 (2) 審査は、都道府県研究会が推薦する者とコンテスト委員会が推薦する者をあわせ、各会場 6 名で行う。
 (3) 順位は、各会場 6 名の審査員の最高点、最低点を除いた 400 点満点とし、会場ごとに合計点の高い順に決定する。
 (4) 各会場から上位 10 名、計 60 名を準決勝出場者として推薦する。

5. 準決勝

- (1) 準決勝出場者は、準々決勝と同じ原稿に続けて、**プログラム号に載る課題文**を朗読する。**※準決勝進出者一覧に発表される集合点呼時刻厳守。**この点呼に遅れた場合は**失格**とする。
 (2) 審査は、準々決勝(2)と同様の審査員 5 名と NHK アナウンサー 1 名(専門職審査員)の計 6 名で行う。
 (3) 順位は、専門職審査員の点数と、他の審査員 5 名の最高点、最低点を除いた 400 点満点として、合計点の高い順に決定する。この際、準々決勝の得点を参考にしない。
 (4) 準決勝出場者 60 名から、上位 10 名を決勝出場者として推薦する。

6. 校内放送活動研究集会(研究講座)Ⅱ

朗読部門の準決勝終了後、朗読部門の研究講座を行う。(アナウンス部門と合同)

7. 決勝

- (1) 決勝出場者は、準々決勝と同じ原稿に続けて、**当日配付する決勝課題**を朗読する。
 (2) 審査は、主催者が委嘱する者で行う。
 (3) 順位は、審査員の順位集計で以下の通りに決定する。
 優勝 1 準優勝 1 優秀 2 優良 6
 この際、準決勝の得点や順位を参考にしない。

8. 規定違反について

コンテストの規定に対して違反があった場合は、失格も含め減点の対象とする。なお、重大な違反が判明した場合には、コンテスト終了後においても賞の取り消しをすることがある。規定違反の例としては、作品の改変、指定以外からの抽出、時間規定違反などがあげられる。

第 72 回 **NHK** 杯全国高校放送コンテスト ラジオドキュメント部門 規程および審査について

制作にあたっては、P18『番組制作について』（詳細は「番組部門規程 細則」にて）を必ず読むこと

1. ラジオドキュメント部門規定

- (1) 高校生活や地域社会とのかかわりの中に広く素材を求め、ラジオの特性を活かして制作された、高校生としての視点を大切に、独創的な作品であること。
- (2) 様式規定に従った番組進行表 1 部を作成する。
- (3) 作品は、**6 分 30 秒以上 7 分以内**とする。作品の最後には「制作は〇〇高等学校（放送部・放送委員会等）でした。」というクレジットコールを入れる。**クレジットコールには、クレジットコール以外の音声を入れない。**
また、**作品の前後に 2 秒程度のブランク（無音）**を入れること。
- (4) 計時は、**最初の音から、クレジットコールの終わり（……でした）まで**とする。
- (5) 作品データは、**音声ファイル MP3 形式**で提出する。

※制作にあたっての注意

審査は公開で行われること、また参加作品を NHK の地域放送や特集番組などで放送したり、イベントや Web サイト、印刷物などに利用したりすることがあるので、制作にあたっては、番組に登場する著作物等の権利者に利用のための許諾を得ること。

2. 審査基準

- (1) 研究主題「私たち高校生と放送」のテーマに沿った、高校生に向けた内容であること。
- (2) 審査の視点
 - a. 企画・内容
 - (ア) 「私たち高校生と放送」という統一テーマを理解し、高校生をとりまく素材の中から適切なものを求め、効果的に表現しているか。
 - (イ) ラジオの特性を活かした作品になっているか。
 - b. 制作技術
 - (ア) 構成・演出
 - (イ) 取材の方法や努力
 - (ウ) ナレーション
 - (エ) 技術
 - ・録音の技術
 - ・編集の技術
 - ・音楽や効果音の使い方 など
- (3) 点数は 100 点法とし、a と b の項に留意して総合的に採点する。

3. 参加申込および番組進行表／作品の提出

出場校は、都道府県担当者の指示に従って、番組進行表および作品のデータを期日までに提出すること。
提出された番組進行表は返却しない。

4. 準々決勝

- (1) 発表は、A B ・ C D ・ E F ・ G H の 4 会場に分かれて行う。
- (2) 審査は、A ～ H の 8 グループに分けて、都道府県研究会が推薦する者とコンテスト委員会が推薦する者を合わせて、各グループ 5 名でリモートで行う。
- (3) 順位は、各会場 5 名の審査員の最高点、最低点を除いた 300 点満点とし、グループごとに合計点の高い順に決定する。
- (4) 各グループから上位 5 作品、計 40 作品を準決勝に推薦する。

5. 準決勝

- (1) 審査は、準々決勝（2）と同様の審査員 5 名と NHK 番組制作担当者 1 名（専門職審査員）の計 6 名で行う。
- (2) 順位は、専門職審査員の点数と、他の審査員 5 名の最高点、最低点を除いた 400 点満点として、合計点の高い順に決定する。この際、準々決勝の得点を参考にしない。
- (3) 40 作品から上位 4 作品を決勝に推薦する。

6. 校内放送活動研究集会（研究講座）Ⅲ

ラジオドキュメント部門の準決勝終了後、研究講座を行う。

7. 決勝

- (1) 審査は、主催者が委嘱する者で行う。
- (2) 順位は、審査員の順位集計で以下の通りに決定する。
優勝 1 準優勝 1 優秀 2
この際、準決勝の得点や順位を参考にしない。

8. 規定違反について

コンテストの規定に対して違反があった場合は、失格も含め減点の対象とする。なお、重大な違反が判明した場合には、コンテスト終了後においても賞の取り消しをすることがある。

規定違反の例としては、他の著作物の盗用、不適切な表現、著作権処理の不備、時間規定違反などがあげられる。

9. 様式規定

(1) 番組進行表

ダウンロードした様式2-1、2-2、2-3、2-4、2-5、2-6、その他必要な書類を綴じたものを番組進行表と呼ぶ。以下の表の規定に従った様式をコンテストのWebサイトよりダウンロードして、必要事項を記入し、**A4判**で作成したものを左上で綴じて**1部**提出する。(両面印刷はしない)。

PDF形式にしたものも提出する。

番組進行表について

(表中の◎の内容は必ず添付する)

◎表紙制作意図スタッフ確認欄 (様式2-1)	プログラムに掲載できる作品名は全角15文字までとなる。 制作意図は200字程度にまとめる。
◎CUEシート (様式2-2)	作品に使用したすべての著作物(様式2-3の権利処理一覧表に記入したもの)が、どこでどのように使用されたのかが一目でわかるように記入する。
◎権利処理一覧表 (様式2-3)	作品に使用した著作物(音楽・効果音・新聞・書籍・美術品・写真・パソコンソフト及びデータなど)と権利処理内容(取材場所・施設・イベント主催者など)をすべて一覧表に記載する。 これらは、著作権処理が不要の物であっても必ず記載する。また著作物を使用しない場合には、表中に大きく「なし」と記載する。

音源を使用した場合	日本レコード協会の許諾証	日本レコード協会のWebサイトで申請し、発行される許諾証を必ず添付する。
	音源使用許諾申請書 音源使用申請に対する回答書 (様式2-4)	著作権隣接権がレコード会社にある音源を使用した場合には必ず添付する。 様式2-4を使用しない場合は、使用を許諾された内容が記載された文書のコピーを必ず添付する。
	著作権者からの使用許諾書のコピー	JASRAC管理の楽曲を使用した場合は、JASRACの録音利用許諾書等のコピーを必ず添付する。それ以外の楽曲の場合は、使用を認められた内容が記載された文書のコピーを必ず添付する。
	著作権フリー素材関連書類	著作権フリー素材を使用する場合、素材のタイトル(曲名)が記された部分のコピーおよび使用条件が記載された文面(使用条件の記載箇所はジャケットとは限らないので注意)のコピーを必ず添付する。
	音源以外の著作物の使用、取材の許諾など (様式2-5)	取材にあたって許諾を必要とする場合は様式2-5を添付する。 写真、画像等の著作物を使用する場合は必ず許諾をとる。
	◎提出前チェック表 (様式2-6)	全ての項目について内容を確認した上で、代表生徒および顧問のチェックを記入する。 項目に該当する内容がない場合は、斜線を記入する。

※「ご協力をお願い」は添付しないこと。

NHK杯全国高校放送コンテストWebサイト

https://hosokyoiku.jp/ncon_h/

(放送教育ネットワーク Webサイト内)

第 72 回 **NHK** 杯全国高校放送コンテスト テレビドキュメント部門 規程および審査について

制作にあたっては、P18『番組制作について（詳細は「番組部門規程 細則」にて）』を必ず読むこと

1. テレビドキュメント部門規定

- (1) 高校生活や地域社会とのかかわりの中に広く素材を求め、テレビの特性を活かして制作された、高校生としての視点を大切に、独創的な作品であること。
- (2) 様式規定に従った番組進行表 1 部を作成する。
- (3) 作品は、**7分30秒以上8分以内**とする。
作品の最後には、制作した学校名の入ったクレジットを入れる。
また、様式3のテストパターンを**作品の前後に5秒ずつ**入れること。テストパターンは改変してはいけない。
- (4) 計時は、**初めのテストパターンの終了時から、終わりのテストパターンの始まりまで**とする。
- (5) テレビ放送番組などの再録を主体としたものは認めない。
- (6) 作品は次の形式で提出する。
MP4形式(アスペクト比 16:9、H.264 コーデック、フル HD 画質以下【解像度 1080[1920×1080] 以下】、フレームレート 29.97fps(30fps)のみ。

※制作に当たっての注意

審査は公開で行われること、また参加作品をNHKの地域放送や特集番組などで放送したり、イベントやWebサイト、印刷物などに利用したりすることがあるので、制作にあたっては、番組に登場する著作物等の権利者に利用のための許諾を得ること。

2. 審査基準

- (1) 研究主題「私たち高校生と放送」のテーマに沿った、高校生に向けた内容であること。
- (2) 審査の視点
 - a. 企画・内容
 - (ア)「私たち高校生と放送」という統一テーマを理解し、高校生をとりまく素材の中から適切なものを求め、効果的に表現しているか。
 - (イ) テレビの特性を活かした作品になっているか。
 - b. 制作技術
 - (ア) 構成・演出
 - (イ) 取材の方法や努力
 - (ウ) ナレーション
 - (エ) 技術
 - ・撮影・録音の技術
 - ・編集の技術
 - ・音楽や効果音の使い方 など
- (3) 点数は100点法とし、aとbの項に留意して

総合的に採点する。

3. 参加申込および番組進行表／作品の提出

出場校は、都道府県担当者の指示に従って、番組進行表および作品データを期日までに提出すること。
提出された番組進行表は返却しない。

4. 準々決勝

- (1) 発表は、AB・CD・EF・GHの4会場に分かれて行う。
- (2) 審査はA～Hの8グループに分けて、都道府県研究会が推薦する者とコンテスト委員会が推薦する者を合わせて、各グループ5名でリモートで行う。
- (3) 順位は、各会場5名の審査員の最高点、最低点を除いた300点満点とし、グループごとに合計点の高い順に決定する。
- (4) 各グループから上位5作品、計40作品を準決勝に推薦する。

5. 準決勝

- (1) 審査は、準々決勝(2)と同様の審査員5名とNHK番組制作担当者1名(専門職審査員)の計6名で行う。
- (2) 順位は、専門職審査員の点数と、他の審査員5名の最高点、最低点を除いた400点満点として、合計点の高い順に決定する。この際、準々決勝の得点を参考にしない。
- (3) 40作品から上位4作品を決勝に推薦する。

6. 校内放送活動研究集会(研究講座)Ⅶ

テレビドキュメント部門の準決勝終了後、研究講座を行う。

7. 決勝

- (1) 審査は、主催者が委嘱する者で行う。
- (2) 順位は、審査員の順位集計で以下の通りに決定する。
優勝 1 準優勝 1 優秀 2
この際、準決勝の得点や順位を参考にしない。

8. 規定違反について

コンテストの規定に対して違反があった場合は、失格も含め減点の対象とする。なお、重大な違反が判明した場合には、コンテスト終了後においても賞の取り消しをすることがある。

規定違反の例としては、他の著作物の盗用、不適切

な表現、著作権処理の不備、時間規定違反などがあげられる。

9. 様式規定

(1) 番組進行表

ダウンロードした様式2-1、2-2、2-3、2-4、2-5、2-6、その他必要な書類を綴じたものを番組進行表と呼ぶ。以下の表の規定に従った様式をコンテストのWebサイトよりダウンロードして、必要事項を記入する。**A4判**でプリントアウトしたものを左上で綴じて**1部**提出する。(両面印刷はしない)

PDF形式にしたものも提出する。

(2) テストパターン (様式3)

指定のテストパターンを改変せずに使用する。

テストパターンはコンテストのWebサイトからダウンロードすること。

番組進行表について

(表中の◎の内容は必ず添付する)

◎表紙 制作意図 スタッフ 確認欄 (様式2-1)	プログラムに掲載できる作品名は 全角15文字までとなる。 制作意図は200字程度にまとめる。
◎CUEシート (様式2-2)	作品に使用したすべての著作物(様式2-3の権利処理一覧表に記入したもの)が、どこでどのように使用されたのかが一目でわかるように記入する。
◎権利処理 一覧表 (様式2-3)	作品に使用した著作物 (音楽・効果音・新聞・書籍・美術品・写真・パソコンソフト及びデータなど) と権利処理内容 (取材場所・施設・イベント主催者など)を すべて一覧表に記載する。 これらは、著作権処理が不要の物であっても必ず記載する。また著作物を使用しない場合には、表中に大きく「なし」と記載する。

音源を使用した場合	日本レコード協会の許諾証	日本レコード協会のWebサイトで申請し、発行される許諾証を必ず添付する。
	音源使用許諾申請書 音源使用申請に対する回答書 (様式2-4)	著作権隣接権がレコード会社にある音源を使用した場合には必ず添付する。 様式2-4を使用しない場合は、使用を許諾された内容が記載された文書のコピーを必ず添付する。
	著作権者からの使用許諾書のコピー	JASRAC管理の楽曲を使用した場合は、JASRACの録音利用許諾書等のコピーを必ず添付する。それ以外の楽曲の場合は、使用を認められた内容が記載された文書のコピーを必ず添付する。
	著作権フリー素材関連書類	著作権フリー素材を使用する場合、素材のタイトル(曲名)が記された部分のコピーおよび使用条件が記載された文面(使用条件の記載箇所はジャケットとは限らないので注意)のコピーを必ず添付する。
音源以外の著作物の使用、取材の許諾など (様式2-5)		取材にあたって許諾を必要とする場合は様式2-5を添付する。写真、画像等の著作物を使用する場合は必ず許諾をとること。
◎提出前 チェック表 (様式2-6)		全ての項目について内容を確認した上で、代表生徒および顧問のチェックを記入する。 項目に該当する内容がない場合は、斜線を記入する。

※ 「ご協力のお願ひ」は添付しないこと。

NHK杯全国高校放送コンテストWebサイト
https://hosokyoiku.jp/ncon_h/
 (放送教育ネットワーク Webサイト内)

第 72 回 **NHK** 杯全国高校放送コンテスト 創作ラジオドラマ部門 規程および審査について

制作にあたっては、P18『番組制作について（詳細は「番組部門規程 細則」にて）』を必ず読むこと

1. 創作ラジオドラマ部門規定

- (1) 脚本は参加資格を有する自校生徒のオリジナル作品であること。**文芸作品などからの脚色や改作は認めない。**
- (2) 様式規定に従った番組進行表 1 部を作成する。
- (3) 作品は、**8 分以内**とする。作品の最後には「制作は〇〇高等学校（放送部・放送委員会等）でした。」というクレジットコールを入れる。**クレジットコールには、クレジットコール以外の音声を入れない。**
また、**作品の前後に 2 秒程度のブランク（無音）**を入れること。
- (4) 計時は、**最初の音から、クレジットコールの終わり（……でした）まで**とする。
- (5) **出演者は自校生徒に限る。**
- (6) 作品データは、**音声ファイル MP3 形式**で提出する。

※制作に当たっての注意

審査は公開で行われること、また参加作品を NHK の地域放送や特集番組などで放送したり、イベントや Web サイト、印刷物などに利用したりすることがあるので、制作にあたっては、番組に登場する著作物等の権利者に利用のための許諾を得ること。

2. 審査基準

- (1) 研究主題「私たち高校生と放送」のテーマに沿った、高校生に向けた内容であること。
- (2) 審査の視点
 - a. 企画・内容
 - (ア) 原作・脚本・演出などにオリジナリティがあるか。
 - (イ) ラジオの特性を活かした作品になっているか。
 - b. 制作技術
 - (ア) 構成・演出
 - (イ) 取材の方法や努力
 - (ウ) 演技
 - (エ) 技術
 - ・録音の技術
 - ・編集の技術
 - ・音楽や効果音の使い方 など
- (3) 点数は 100 点法とし、a と b の項に留意して総合的に採点する。

3. 参加申込および番組進行表／作品の提出

出場校は、都道府県担当者の指示に従って、番組進行表および作品のデータを期日までに提出すること。

提出された番組進行表は返却しない。

4. 準々決勝

- (1) 発表は、A・B・C・D の 2 会場に分かれて行う。
- (2) 審査は A～D の 4 グループに分けて、都道府県研究会が推薦する者とコンテスト委員会が推薦する者を合わせて、各グループ 5 名でリモートで行う。
- (3) 順位は、各会場 5 名の審査員の最高点、最低点を除いた 300 点満点とし、グループごとに合計点の高い順に決定する。
- (4) 各グループから上位 5 作品、計 20 作品を準決勝に推薦する。

5. 準決勝

- (1) 審査は、準々決勝 (2) と同様の審査員 5 名と NHK 番組制作担当者 1 名（専門職審査員）の計 6 名で行う。
- (2) 順位は、専門職審査員の点数と、他の審査員 5 名の最高点、最低点を除いた 400 点満点として、合計点の高い順に決定する。この際、準々決勝の得点を参考にしない。
- (3) 20 作品から上位 3 作品を決勝に推薦する。

6. 校内放送活動研究集会（研究講座）Ⅴ

創作ラジオドラマ部門の準決勝終了後、研究講座を行う。

7. 決勝

- (1) 審査は、主催者が委嘱する者で行う。
- (2) 順位は、審査員の順位集計で以下の通りに決定する。
優勝 1 準優勝 1 優秀 1
この際、準決勝の得点や順位を参考にしない。

8. 規定違反について

コンテストの規定に対して違反があった場合は、失格も含め減点の対象とする。なお、重大な違反が判明した場合には、コンテスト終了後においても賞の取り消しをすることがある。

規定違反の例としては、他の著作物の盗用、不適切な表現、自校生徒以外での出演、著作権処理の不備、時間規定違反などがあげられる。

9. 様式規定

(1) 番組進行表

ダウンロードした様式 2-1、2-2、2-3、2-4、2-5、2-6、その他必要な書類を綴じたものを番組進行表と呼ぶ。以下の表の規定に従った様式をコンテストの Web サイトよりダウン

ロードして、必要事項を記入し、**A4判**で作成したものを左上で綴じて**1部**提出する。(両面印刷はしない)

PDF形式にしたものも提出する。

番組進行表について

(表中の◎の内容は必ず添付する)

◎表紙 制作意図 あらすじ スタッフ・ キャスト 確認欄 (様式2-1)	プログラムに掲載できる作品名は全角15文字までとなる。 制作意図は200字程度にまとめる。 あらすじは結末まで入れて400字程度にまとめる。
◎CUEシート (様式2-2)	作品に使用したすべての著作物(様式2-3の権利処理一覧表に記入したもの)が、どこでどのように使用されたのかが一目でわかるように記入する。
◎権利処理一覧表 (様式2-3)	作品に使用した著作物(音楽・効果音・新聞・書籍・美術品・写真・パソコンソフト及びデータなど)と権利処理内容(取材場所・施設・イベント主催者など)をすべて一覧表に記載する。 これらは、著作権処理が不要の物であっても必ず記載する。また著作物を使用しない場合には、表中に大きく「なし」と記載する。

音源を使用した場合	日本レコード協会の許諾証	日本レコード協会の Web サイトで申請し、発行される許諾証を必ず添付する。
	音源使用許諾申請書 音源使用申請に対する回答書 (様式2-4)	著作権隣接権がレコード会社にある音源を使用した場合には必ず添付する。 様式2-4を使用しない場合は、使用を許諾された内容が記載された文書のコピーを必ず添付する。
	著作権者からの使用許諾書のコピー	JASRAC 管理の楽曲を使用した場合は、JASRAC の録音利用許諾書等のコピーを必ず添付する。それ以外の楽曲の場合は、使用を認められた内容が記載された文書のコピーを必ず添付する。
	著作権フリー素材関連書類	著作権フリー素材を使用する場合、素材のタイトル(曲名)が記された部分のコピーおよび使用条件が記載された文面(使用条件の記載箇所はジャケットとは限らないので注意)のコピーを必ず添付する。
音源以外の著作物の使用、取材の許諾など (様式2-5)		取材にあたって許諾を必要とする場合は様式2-5を添付する。写真、画像等の著作物を使用する場合は必ず許諾をとる。
◎提出前チェック表 (様式2-6)		全ての項目について内容を確認した上で、代表生徒および顧問のチェックを記入する。 項目に該当する内容がない場合は、斜線を記入する。

※「ご協力のお願い」は添付しないこと。

NHK杯全国高校放送コンテスト Web サイト

https://hosokyoiku.jp/ncon_h/

(放送教育ネットワーク Web サイト内)

第 72 回 **NHK** 杯全国高校放送コンテスト 創作テレビドラマ部門 規程および審査について

制作にあたっては、P18『番組制作について（詳細は「番組部門規程 細則」にて）』を必ず読むこと

1. 創作テレビドラマ部門規定

- (1) 脚本は参加資格を有する自校生徒のオリジナル作品であること。**文芸作品などからの脚色や改作は認めない。**
- (2) 様式規定に従った番組進行表 1 部を作成する。
- (3) 作品は、**8分以内とする。作品の最後には、制作した学校名の入ったクレジットを入れる。**
また、様式 3 のテストパターンを**作品の前後に 5秒ずつ**入れること。テストパターンは改変してはいけない。
- (4) 計時は、**初めのテストパターンの終了時から、終わりのテストパターンの始まりまで**とする。
- (5) **出演者は自校生徒に限る。**
- (6) 作品は次の形式で提出する。
MP4 形式(アスペクト比 16:9、H.264 コーデック、フル HD 画質以下【解像度 1080[1920×1080] 以下】、フレームレート 29.97fps(30fps)のみ。)

※制作にあたっての注意

審査は公開で行われること、また参加作品をNHKの地域放送や特集番組などで放送したり、イベントやWebサイト、印刷物などに利用したりすることがあるので、制作にあたっては、番組に登場する著作物等の権利者に利用のための許諾を得ること。

2. 審査基準

- (1) 研究主題「私たち高校生と放送」のテーマに沿った、高校生に向けた内容であること。
- (2) 審査の視点
 - a. 企画・内容
 - (ア) 原作・脚本・演出などにオリジナリティがあるか。
 - (イ) テレビの特性を活かした作品になっているか。
 - b. 制作技術
 - (ア) 構成・演出
 - (イ) 取材の方法や努力
 - (ウ) 演技
 - (エ) 技術
 - ・撮影・録音の技術
 - ・編集の技術
 - ・音楽や効果音の使い方 など
- (3) 点数は 100 点法とし、a と b の項に留意して総合的に採点する。

3. 参加申込および番組進行表／作品の提出

出場校は、都道府県担当者の指示に従って、番組進行表および作品データを期日までに提出すること。
提出された番組進行表は返却しない。

4. 準々決勝

- (1) 発表は、A・B・C・D の 2 会場に分かれて行う。
- (2) 審査は A～D の 4 グループに分けて、都道府県研究会が推薦する者とコンテスト委員会が推薦する者を合わせて、各グループ 5 名でリモートで行う。
- (3) 順位は、各会場 5 名の審査員の最高点、最低点を除いた 300 点満点とし、グループごとに合計点の高い順に決定する。
- (4) 各グループから上位 5 作品、計 20 作品を準決勝に推薦する。

5. 準決勝

- (1) 審査は、準々決勝 (2) と同様の審査員 5 名と NHK 番組制作担当者 1 名（専門職審査員）の計 6 名で行う。
- (2) 順位は、専門職審査員の点数と、他の審査員 5 名の最高点、最低点を除いた 400 点満点として、合計点の高い順に決定する。この際、準々決勝の得点を参考にしない。
- (3) 20 作品から上位 3 作品を決勝に推薦する。

6. 校内放送活動研究集会（研究講座）Ⅶ

創作ラジオドラマ部門の準決勝終了後、研究講座を行う。

7. 決勝

- (1) 審査は、主催者が委嘱する者で行う。
- (2) 順位は、審査員の順位集計で以下の通りに決定する。
優勝 1 準優勝 1 優秀 1
この際、準決勝の得点や順位を参考にしない。

8. 規定違反について

コンテストの規定に対して違反があった場合は、失格も含め減点の対象とする。なお、重大な違反が判明した場合には、コンテスト終了後においても賞の取り消しをすることがある。

規定違反の例としては、他の著作物の盗用、不適切な表現、自校生徒以外での出演、著作権処理の不備、時間規定違反などがあげられる。

9. 様式規定

(1) 番組進行表

ダウンロードした様式2-1、2-2、2-3、2-4、2-5、2-6、その他必要な書類を綴じたものを番組進行表と呼ぶ。以下の表の規定に従った様式をコンテストのWebサイトよりダウンロードして、必要事項を記入する。**A 4判**で作成したものを左上で綴じて**1部**提出する。(両面印刷はしない)

PDF形式にしたものも提出する。

(2) テストパターン (様式3)

指定のテストパターンを改変せずに使用する。**テストパターンはコンテストのWebサイトからダウンロードすること。**

番組進行表について

(表中の◎の内容は必ず添付する)

◎表紙 制作意図 あらすじ スタッフ・ キャスト 確認欄 (様式2-1)	プログラムに掲載できる作品名は全角15文字までとなる。 制作意図は200字程度にまとめる。あらすじは結末まで入れて400字程度にまとめる。
◎CUEシート (様式2-2)	作品に使用したすべての著作物(様式2-3の権利処理一覧表に記入したもの)が、どこでどのように使用されたのかが一目でわかるように記入する。
◎権利処理一覧表 (様式2-3)	作品に使用した著作物 (音楽・効果音・新聞・書籍・美術品・写真・パソコンソフト及びデータなど)と 権利処理内容 (取材場所・施設・イベント主催者など)をすべて一覧表に記載する。 これらは、著作権処理が不要の物であっても必ず記載する。また著作物を使用しない場合には、表中に大きく「なし」と記載する。

音源を使用した場合	日本レコード協会の許諾証	日本レコード協会のWebサイトで申請し、発行される許諾証を必ず添付する。
	音源使用許諾申請書 音源使用申請に対する回答書 (様式2-4)	著作権隣接権がレコード会社にある音源を使用した場合には必ず添付する。 様式2-4を使用しない場合は、使用を許諾された内容が記載された文書のコピーを必ず添付する。
	著作権者からの使用許諾書のコピー	JASRAC管理の楽曲を使用した場合は、JASRACの録音利用許諾書等のコピーを必ず添付する。 それ以外の楽曲の場合は、使用を認められた内容が記載された文書のコピーを必ず添付する。
	著作権フリー素材関連書類	著作権フリー素材を使用する場合は、素材のタイトル(曲名)が記された部分のコピーおよび使用条件が記載された文面(使用条件の記載箇所はジャケットとは限らないので注意)のコピーを必ず添付する。
音源以外の著作物の使用、取材の許諾など (様式2-5)		取材にあたって許諾を必要とする場合は様式2-5を添付する。写真、画像等の著作物を使用する場合は必ず許諾をとる。
◎提出前チェック表 (様式2-6)		全ての項目について内容を確認した上で、代表生徒および顧問のチェックを記入する。 項目に該当する内容がない場合は、斜線を記入する。

※ 「ご協力のお願ひ」は添付しないこと。

NHK杯全国高校放送コンテストWebサイト

https://hosokyoiku.jp/ncon_h/

(放送教育ネットワーク Webサイト内)

発表会で提示する資料についても権利処理が必要です。P18『番組制作について（詳細は「番組部門規程 細則」にて）』を必ず読むこと。

1. 目 的

日常の校内放送活動の中から、問題解決の取り組みや創意工夫などを発表する機会を設ける。各学校が持つ諸問題を共有し、共に解決することを目的とする。

2. 発表について

- (1) 本発表会は発表技術を競うものではない。
発表者は以下を重視すること。
研究内容の普遍性（多くの学校に通用する内容）
研究成果の有用性（校内放送の現場で活用可能）
研究結果の完成度（結論への到達）
過度な演出ではなく、研究内容を適切に伝える工夫をする。
- (2) 発表内容は、校内放送に関するものに限る。発表の内容について、以下の3類型を設定する。
I 類 = アナウンスや朗読に関する研究
II 類 = 番組制作に関する研究
III 類 = その他（学校行事運営や校内放送など）
発表校はエントリーの際に自校の発表がどの類型に該当するかを申告する。
- (3) 発表内容は今回のコンテストの各部門にエントリーしているものに関連する内容、および類似の内容であってはいけない。今回のコンテストに参加している作品の上映はたとえ一部であっても一切認めない。
- (4) 発表は、PowerPoint を使用したスクリーン1面のプレゼンテーションで行う。発表時間は機材調整を含め8分以内とし、発表者は機器操作も含めて3人までとする。**録音・録画を主体とする発表は認めない。**発表者はエントリー時にPowerPoint データを提出する。発表は主催者が用意したノートパソコンを使って発表を行う。
- (5) 発表用のPowerPoint のデータ容量は**300MB 以内**とする。発表用のPowerPoint データは事前に提出して主催者の確認を受ける。提出後の発表用データ内容の変更は認めない。
- (6) 発表は主催者が用意するノートパソコンを使用して行う。発表者は発表用のPowerPoint データの作成にあたり、他のパソコンで開くことを想定して**ファイルにフォントを埋め込んでおくこと**。
- (7) 発表は公開を前提にしているため、提示する資料は必要な権利処理を行うこと。
- (8) 発表では、メーカー名、商品名の写り込み、特定の商品のPRを避けること。
- (9) 全ての発表校に『研究奨励』が贈られる。

3. 発表前機材チェック 7月22日（火） 国立オリンピック記念青少年総合センター

- (1) 発表校は7月22日（火）に発表前機材チェックを行う。主催者は7月23日（水）、24日（木）の発表で使用するノートパソコンを準備する。
- (2) 発表校は主催者から7月23日（水）の発表で使用する機器の操作に関するレクチャーを受ける。発表校は指定された時間に点検会場に集合する。**集合時間は参加申し込み後、NHK杯全国高校放送コンテスト Web サイトで発表する。**
- (3) 発表校は発表で使用するノートパソコン上で発表用PowerPoint の動作点検を行う。発表校が意図しない表示や動作があった場合には主催者の立会いの下、データを修正することが出来るが、それ以外の改変はできない。
- (4) 発表前機材チェックの場で発表の練習やリハーサルをすることはできない。

4. 発表① ブロック発表 7月23日（水） 国立オリンピック記念青少年総合センター

- (1) 発表校は2会場に分かれて発表を行う。**各会場での発表は6校から8校程度の発表校ごとにブロックを編成して行う。**主催者はブロック編成にあたり、各ブロックに**2. 発表についての（2）**で示した発表内容についての類型のI類、II類、III類ができるだけ均等に配置されるように割り振り、それぞれのブロックで発表分野に大きな偏りが出ないように配慮する。また同じ都道府県の学校が同じブロックに編入されないようにする。
- (2) **各発表校の発表会場と所属ブロック、各ブロックの集合時間は参加申し込み後、NHK杯全国高校放送コンテスト Web サイトで発表する。**発表校は自校が発表するブロックの集合時間に集まること。
- (3) 発表校は会場でブロックごとに集合した後、**機材の操作確認とPowerPoint の起動チェック**を行う。その後、指定された順番で発表を行う。
- (4) 各会場には、主催者が以下の機材を用意する。
 1. Windows11 搭載のノートパソコン1台
 2. PowerPoint2021
 3. マイク2本
 4. 卓上ライト
 5. レーザーポインタ
 また、発表中は会場を消灯する。
- (5) 発表中に印刷物を配付したり、両手で掲げられる程度の大きさの製作物を提示することは構わないが、大きな作品を組み立てたり設置したりすることはできない。また、持ち込んだ機材を電源等の会場設備に接続することはできない。
- (6) ブロック内の全ての発表が終わった後、相互評

価を行う。各発表校は自分の属するブロックの中から、**2. 発表についての(1)**にある観点に立って、自校以外の発表から優れていると思われる発表について、上から順にA, B, Cとランクをつけ、主催者に申告する。各発表校の申告の内容は非公開とする。

- (7) **相互評価が終わった後、ブロックごとに交流会を行う。**その後、発表者は『研究奨励』を受け取り、主催者の指示でブロックごとに解散する。
- (8) 各発表会場には製作物や資料等を展示することができる**展示スペース**を設定する。**展示を希望する発表校はエントリー時に申請すること。**各発表校に割り当てられる展示スペースの広さは約180 cm×90 cmとし長机1台を提供する。**会場の壁面は使えない。**会場の都合上、このスペースに展示できるのは最大10校とし、**これを超える申請があった場合には抽選を行う。**抽選結果はブロック編成の発表と同時に発表する。

5. 発表② 代表校による発表 7月24日(木) NHKホール

- (1) 7月23日(水)のブロック発表に参加した学校の中から2校を代表に選出する。選ばれた代表校は、各部門の決勝が行われる7月24日(木)にNHKホールで発表する。
- (2) 発表会場には主催者が7月23日(水)のブロック発表で使用したものと同一型のノートパソコンを用意する。会場は消灯しない。卓上ライトは使用しない。レーザーポインタは使えない。
- (3) 発表を行う代表校は7月23日(水)にブロック発表が行われた**2つの会場から、それぞれ1校を、**ブロックごとに行われた**相互評価の結果を反映させる形で選出する。**
- (4) ブロック発表の際に行う相互評価を点数化して代表校選考の指標とする。点数化には次の式を用いる。

$$\frac{A \text{ の個数} \times 100 + B \text{ の個数} \times 70 + C \text{ の個数} \times 50}{\text{ブロック内の発表数} - 1}$$

式の中のABCは**4. 発表① ブロック発表 7月23日(水) 国立オリンピック記念青少年総合センター**の(6)にある相互評価のABCを指す。各会場で最も高い点数を獲得した発表校が代表校候補となる。1位同点が発生した場合は主催者が発表分野などを考慮して代表校を選考する。

- (5) **同一県の2校が代表校になることはできない。**2つの会場で同じ都道府県の学校が選ばれた場合には持ち点の低い方を選考から外し、次点の学校を繰り上げる。

- (6) 各発表校の得点は公表しない。

6. 報告号における研究成果の共有

- (1) 研究内容を広く共有し、各学校での校内放送活動の活性化に寄与するために、報告号を活用する。報告号には以下のものを掲載する。
- ・全ての発表校のPowerPoint データ (PDF)
 - ・全ての発表校の発表要旨 (研究の目的と方法論と結論を、わかりやすく200字程度でまとめたもの)。
- (2) 注目された研究の成果を共有するために、主催者はNHKホールで発表する代表校に「研究背景」「研究方法」「考察」などからなる発表概要の寄稿を依頼する。さらに相互評価の際に高い点数を獲得した発表校に代表校と同様の発表概要の寄稿を依頼する。

7. エントリー時の提出物

- (1) 研究要旨
発表校は、200字程度の研究要旨を都道府県担当者に提出する。**展示スペース利用の希望がある場合にはあわせて申請する。**都道府県担当者は指定のExcelシートに入力して、**2025年6月27日(金)**までに提出する。(P3参照)
- (2) 研究発表進行表
研究発表進行表を提出する。著作権処理が必要なもの(BGM、写真など)については、番組部門と同様の処理を行う。都道府県担当者は様式4-1、4-2、4-3、4-6、さらに必要に応じて4-4、4-5、を綴じた研究発表進行表を**2025年7月4日(金) 正午**までに事務局へ郵送する。(P3参照)
- (3) 発表用PowerPoint データとPDF データ
発表校は、発表で使用するPowerPoint のデータと、そのPDF データ、および研究発表進行表のデータを**2025年7月2日(水)**までに提出する。(P3参照) 提出されたデータは主催者のチェックを受ける。

NHK杯全国高校放送コンテスト Web サイト
https://hosokyoiku.jp/ncon_h/
(放送教育ネットワーク Web サイト内)

番組制作について（詳細は「番組部門規程 細則」にて）

https://hosokyoiku.jp/ncon_h/（放送教育ネットワーク Web サイト内）

高校放送コンテスト＞2025 年度第 72 回＞要項

手続きに必要な様式と記入例、記入上の注意をダウンロードしてご利用ください



番組制作は著作物の創造です。制作者であるみなさんは、自分の著作物を勝手に使用されたり改変されたりしない権利を有しています。制作にあたって他者の権利を尊重し、著作権や肖像権等を守るのは、自分の権利を守るのと同じことです。制作者・情報発信者であるみなさんは、企画の段階からこの点に配慮し、必要な手続きをとって、取材や制作を進めてください。

☆ 各学校が公開のための手続きを必ず行ってください

参加規定にある通り「放送コンテスト」ですので、放送（公開）することを前提としています。参加作品を NHK の地域放送や特集番組、Web サイトなどで公開したり、イベントや印刷物等に使用したりすることがあります。次項「権利処理について」を参照し、これらの手続きを行ってください。

コンテストでは円滑な作品発表を期すために下記の事項が既処理であることを確認の上運営する必要があります。作品提出時に、これらが既処理であることを示す書類も一緒に提出してください。**手続きが行われていない場合、審査・公開できないことがあります。**

毎回権利処理不備などの規定違反の作品が都道府県の推薦を受けていることがあります。基本的に権利処理などの手続きは各学校が責任を持って行ってください。作品内で著作物を使用した場合は様式 2－3（研究発表は様式 4－3）で分かるように記入して、それぞれに必要な手続きをしてください。今回から新たに様式 2－6（研究発表は様式 4－6）を提出物の一部としています。取材や編集する前に、この内容を確認してください。

☆ 権利処理について

1. 著作権

映像や画像、音楽、書籍など、自分以外の人が創作したものを素材として使用する場合

- （1）オリジナルを創った人の許諾が必要です。
- （2）大きく写り込んだ登録商標や、音声での登録商標の表現等についても使用の可否を確認する必要があります。

2. 肖像権

他の人の顔や姿などを当該人物だと確認できる状態で使用する場合

- （1）基本的にその人（または保護者や管理者等）の許諾が必要です。本人の事情等で作品中への映り込みが問題となってしまう場合もあります。特に学童など本人が映り込みの可否を判断できない場合は、保護者や管理者の許諾書を確実に得てください。
- （2）肖像権ではありませんが、他人の敷地内や施設内で無断で取材を行うなど、他人の権利を侵害することがあってはいけません。自校の行事等であっても、主催者（多くは学校長）の許諾書が必要です。

3. その他（コンテストで発表して支障がないか）

誰かを誹謗中傷するものや残酷な内容、著しく反社会的な内容、公序良俗に反する内容などはコンテストへの出品内容としては適当ではありません。

☆ 手続きには時間がかかります

取材や著作物使用に関するすべての手続きは、**都道府県コンテスト（または都道府県が指示する地区コンテスト）までに完了してください。**

書類提出締切直前に著作物の使用許諾を申請することは、関係機関に多大な迷惑をかけ、コンテストに関わる全作品の許諾に支障が出る恐れもあります。まず、関係機関の Web サイトで手続きについて確認し、十分な余裕を持って申請を行ってください。必要な許諾書の提出が間に合わない場合、審査・公開できません。

表紙

都道府県	部門	準決勝番号
------	----	-------

ふりがな	
学校名	

※正式名称を記入してください

ふりがな	作品名
------	-----

※プログラムには全角15文字までしか表示されません

制作意图[200字程度]

Journal of Management Inquiry 22(5) 479-494

あらすじ [創作ドラマ部門のみ 400字程度] ※結末まで入れること

Downloaded from <http://ajphaphysocpharm.sagepub.com/> at 11:27 PM on June 11, 2015

スタッフ・キャスト (キャストは創作ドラマ部門のみ)

ファイル形式	MP4/MP3
データ量	MB GB
以下、テレビ部門の場合	
解像度	×
fps	fps

確認者氏名	確認欄				許諾に関する書類	様式 2-6 提出用チェック表
	様式 2-1 表紙	様式 2-2 CUE シート	様式 2-3 権利処理一覧表	様式 2-4 様式 2-5		
参加校顧問						
都道府県担当						

※様式の有無を確認して✓チェックを入れてください。

CUE-T

[illegible]

見 本

様式は次のURLからダウンロードしてください。

https://hosokyoiku.jp/ncon_h/

(放送教育ネットワーク Webサイト内)

高校放送コンテスト > 2025年度 第72回 > 各部門様式

權利處理一覽表

作品名

名校學

[illegible]

番組制作について(詳細は、「番組部門規程 細則」の様式2-3の記入例と解説を参照のこと)。

- ・添付書類が不要のもののみ番号に○をつける。
- ・このページに楽曲、効果音、美術品、写真、TV番組等を記入する。
- ・分野に依り添付する書類には、A4用紙の右上に関連する著作物番号を失書する。

見 本

様式は次のURLからダウンロードしてください。

https://hosokyoiku.jp/ncon_h/

(放送教育ネットワーク Webサイト内)

高校放送コンテスト＞2025年度 第72回＞各部門様式

音源使用許諾申請書

【録音・録画】NHK杯全国高校放送コンテスト】

申述日 年 月 日

母 姓

申請者	住所	〒
	学校名 団体・法人名	
	代表者名	
	TEL	FAX
	担当部署	担当者名
	連絡先等	(TEL) (FAX)
	e-mailアドレス	
使用音源	使用音源タイトル	
	商品(CD)名	
	商品番号	トラック番号
		曲目

使用目的

「第72回NHK杯全国高校放送コンテスト」(高校生自作の「ラジオ・テレビ」番組)に応募し、審査を受けるため(作品データは主催者において、Web上での審査および授受を行うほか、受賞作品として放送・Web配信等で公開される場合があります)

使用対象	録音録画物の種類	枚	音源使用時間	秒
応募作品のタイトル		CD-R	DVD-R	
	録音録画物の数量			

音源使用申請に対する回答書

三
四
五

(学校名) 学校

(二)担当者名

レコード会社	担当部署	印
責任者	担当者名	
住所 〒		
TEL		FAX
e-mail アドレス		

上の条件に関し、

- A. 残念ながら許諾できません。 別の楽曲をお使いください。
B. 下記条件にて複製許諾を承認します。

＜使用条件＞

取材許諾・著作物等ご提供のお願い

年 月 日

様(御中)

このたびは、NHK杯全国高校放送コンテストの応募作品にご協力をいただき、まことにありがとうございます。ご協力をいただく作品につきまして、下記に示した利用方法での活用にご依頼申し上げます。どうかよろしくお願いいたします。

◎ 許諾または提供いただくもの

内容	権利処理番号・記号

◎ 依頼者

学校名(団体名)	
代表者(顧問)名	
所在地	
連絡先	電話 FAX
担当者(制作者)名	
応募作品名	

【利用方法】

- ① NHK杯全国高校放送コンテスト(地区コンテスト・全国コンテスト)での公開
- ② 主催者による作品の使用および部分使用
(放送、広報、イベント、Webサイトでの配信 ※Web上での作品データの書き換えおよび複製を含む) 等)

太枠内にご記入ください

許諾書		年 月 日
学校名		
代表者(顧問)名	あて	
私は、今回協力する作品やその作品素材の映像・音声が保存され、上記の利用方法で活用されることを許諾します。 なお、この件については、(無償 ・ 次の条件) で 許諾することとします。		
◎ 許諾者		
ご所属		
ご職位		
ご署名		

ご協力をお願い

年 月 日

様(御中)

見 本

このたびは、NHK杯全国高校放送コンテストの応募作品にご協力をいただき、まことにありがとうございます。ご協力をいただく作品につきまして、下記に示した利用方法での活用をご依頼申し上げます。どうかよろしくお願いいたします。

◎ ご協力内容

--

◎ 依頼者

学校名(団体名)	
代表者(顧問)名	
所在地	
連絡先	電話 FAX
担当者(制作者)名	
応募作品名	

◎ 利用方法

- ① NHK杯全国高校放送コンテスト(地区コンテスト・全国コンテスト)での公開
- ② 主催者による作品の使用および部分使用
(放送、広報、イベント、Webサイトでの配信 ※Web上での作品データの書き換えおよび複製を含む) 等)

様式は次のURLからダウンロードしてください。

https://hosokyoiku.jp/ncon_h/

(放送教育ネットワーク Webサイト内)

高校放送コンテスト > 2025年度 第72回 > 各部門様式

提出前チェック表

部門名 _____ 作品名 _____ 学校名 _____

- ・取材や編集前に以下の内容を確認し、違反や不備がないようにしてください。
- ・制作した生徒の代表者と顧問がそれぞれの項目にチェック「✓」をしてください。
- ・項目に該当する内容がない場合は斜線「/」を記入してください。

			代表生徒 チェック	顧問 チェック
1	様式2-1	必要事項を記入している(創作ドラマ部門のあらすじは結末まで書いています)。		
2	様式2-1	スタッフ・キャスト(番組制作者)を記入している。		
3	様式2-1	提出データの形式が規定通りとなっていて、詳細欄を記入している。		
4	様式2-1	著作権管理団体の許諾を受けた場合、許諾番号を記入している。		
5	様式2-2	著作物の音声レベルを記入している。		
6	様式2-2	著作物使用の開始から終了までの時間を内容ごとに記入している。		
7	様式2-2	権利処理の番号と分類を他の様式、添付書類と統一して記入している。		
8	様式2-2	様式2-3の「権利処理・著作物名」を内容欄に記入している。		
9	様式2-2	音声・映像ごとに内容を記入している。		
10	様式2-2	一つ一つのナレーション・セリフの始まりと終わりを記入している。		
11	様式2-2 様式2-3	添付書類不要の権利処理番号に○をつけている。		
12	様式2-3	使用した著作物をすべて記入している。		
13	様式2-3	自作の著作物(音源含む)については「自作」と記入している。		
14	様式2-3	音楽著作物はCDタイトルと曲名を記入している。		
15	様式2-3	権利者の許諾書欄を記入している。消失・自作は斜線を記入している。		
16	様式2-3	著作隣接権者(演奏者・レコード協会等)欄に記入している。		
17	様式2-3	オリジナルの所有者を記入している。		
18	CD使用の許諾を得て、レコード協会の許諾証または様式2-4を添付している。			
19	著作権管理団体または該当する著作権者から楽曲使用の許諾を得て、必要書類を添付している。			
20	様式2-5	イベント(校内の行事等も含む)・公式試合・競技会等の取材について、それぞれの主催者の許諾書を添付している。		
21	様式2-5	録音・撮影が制限される場所・先方が文書を求める場合の取材について、管理者の許諾書を添付している。		
22	様式2-5	乳幼児・小中学生の映像・音声で、個人が特定される場合は、保護者の許諾書(団体の責任者が保護者の許諾を得ている証明の文書)を添付している。		
23	様式2-5	著作物の使用について許諾を得て、必要事項を記入し添付している。		
24	様式2-5	校歌等学校の曲(著作権管理団体の管理外の場合)の使用について許諾を得て、必要事項を記入し添付している。		
25	様式2-5	演技者・演奏者(「ご協力をお願い」で取材の了解を得た取材対象者を含む)の演技・演奏の使用について許諾を得て、必要事項を記入し添付している。		
26	様式2-5	番組制作者以外が制作した著作物・収録した音声や映像について許諾を得て、必要事項を記入し添付している。		
27	様式2-5	写真(静止画含む)の使用について権利者(撮影者・所有者・被写体となった人)の許諾を得て、必要事項を記入し添付している。		
28	朱書きの指示がある書類に、使用素材ごとに権利処理番号を朱書きし、添付している。			
29	著作権フリーCDの使用条件を示した部分のコピーを添付している。			
30	使用不可のインターネット上の素材等を使用していない。			
31	レンタル店・図書館等から借りた音源を使用していない。			
32	他のコンテスト・コンクール等に参加した作品またはそれを改変・改編した作品ではない。			
33	作品は、コンテスト審査の他、主催者により放送やインターネットで配信しても構わない。			
34	上記の放送や配信の際に、制作者の都合による提出後の内容の改変には応じられないことを理解している。			

研究発表進行表

校内放送研究発表会		ふりがな	
郷道 府県			
		記入しないでください	
		番号	

ふりがな	
学校名	

※ 正式名称を記入してください

下			
	TEL		FAX
	顧問名		顧問連絡先(携帯電話など)

英仕博管理団体の英語番号

発表時間 (準備含めます)	分 秒
PowerPointデータ量	

ふりがな		研究の種類
研究タイトル		Ⅰ類・Ⅱ類・Ⅲ類 該当するものに○印をつけてください

※文字数が多くなるとプログラムの文字が小さくなります。
注意してください

研究要旨(200字程度)

ACCEPTED MANUSCRIPT

どちらか一方に○をつけてください

展示スペースの使用を希望する・希望しない

確認欄	様式 4-1 表紙	様式 4-2 CUEシート	様式 4-3 権利処理一 覧表	申請に関する書類		様式 4-6 提出前チェック表	確認者 氏 名
				様式 4-4	様式 4-5 その他		
発表校顧問							
都道府県担当者							

※内容を確認後、必ず✓チェックを入れてください。

第72回NHK杯全国高校放送コンテスト

見 本

様式は次のURLからダウンロードしてください。

https://hosokyoiku.jp/ncon_h/

(放送教育ネットワーク Webサイト内)

高校放送コンテスト＞2025年度 第72回＞各部門様式

[illegible]

※この書類も提出が必要です

提出前チェック表(開発用)

学校名	
研究タイトル	

- ・取材や編集前に以下の内容を確認し、違反や不備がないようにしてください。
- ・制作した生徒の代表者と顧問がそれぞれの項目にチェック「✓」をしてください。
- ・項目に該当する内容がない場合は「/」を記入してください。

			代表生徒 チェック	顧問 チェック
1	様式4-1	発表時間を記入している。		
2	様式4-1	発表用PowerPointのデータ量を記入している。		
3	様式4-1	研究の類型について、Ⅰ類、Ⅱ類、Ⅲ類のどれかに○をつけている。		
4	様式4-1	展示スペースの使用を「希望する」「希望しない」のどちらかに○をつけている。		
5	様式4-2	全てのスライドについて記入している。		
6	様式4-2	著作権処理番号は他の様式、添付書類と一致している		
7	様式4-2	権利手続きの分類を記入している。		
8	様式4-2	様式4-3の「権利処理・著作物名」を内容欄に記入している。		
9	様式4-2 様式4-3	添付書類不要の権利処理番号に○をつけている。		
11	様式4-3	音楽著作物にはCDタイトルと曲名を記入している。		
12	様式4-3	自作の著作物（音楽含む）については「自作」と記入している。		
13	様式4-3	権利者の許諾書欄に記入している。消失・自作は斜線を記入している。		
14	様式4-3	著作隣接権者（演奏者・レコード協会等）欄に記入している。		
15	様式4-3	オリジナルの所有者を記入している。		
16	CD使用の許諾を得て、レコード協会の許諾証または様式4-4を添付している。			
17	著作権管理団体または該当する著作権者から楽曲使用の許諾を得て、必要書類を添付している。			
18	様式4-5	イベント（校内の行事等も含む）・公式試合・競技会等の取材について、それぞれの主催者の許諾書を添付している。		
19	様式4-5	録音・撮影が制限される場所・先方が文書を求める場合の取材について、管理者の許諾書を添付している。		
20	様式4-5	乳幼児・小中学生の映像・音声で、個人が特定される場合は、保護者の許諾書(団体の責任者が保護者の許諾を得ている証明の文書)を添付している。		
21	様式4-5	著作物の使用について許諾を得て、必要事項を記入し添付している。		
22	様式4-5	校歌等学校の曲(著作権管理団体の管理外の場合)の使用について許諾を得て、必要事項を記入し添付している。		
23	様式4-5	演技者・演奏者（「ご協力をお願い」で取材の了解を得た取材対象者を含む）の演技・演奏の使用について許諾を得て、必要事項を記入し添付している。		
24	様式4-5	発表スタッフ以外が制作した著作物・収録した音声や映像について許諾を得て、必要事項を記入し添付している。		
25	様式4-5	写真（静止画含む）の使用について権利者（撮影者・所有者・被写体となった人）の許諾を得て、必要事項を記入し添付している。		
26	朱書きの指示がある書類に、使用素材ごとに権利処理番号を朱書きし、添付している。			
27	著作権フリーCDの使用条件を示した部分のコピーを添付している。			
28	使用不可のインターネット上の素材等を使用していない。			
29	レンタル店・図書館等から借りた音源を使用していない。			



学校法人片柳学園

2027年、片柳学園は創立80周年を迎えます

大学か、専門学校か。
編入の道も選べる！

蒲田キャンパス

八王子キャンパス



蒲田キャンパス

デザイン学部

医療保健学部

- 看護学科 ●臨床工学科
- リハビリテーション学科
- [理学療法専攻／作業療法専攻／言語聴覚専攻]
- 臨床検査学科

大学院

八王子キャンパス

コンピュータサイエンス学部

工学部

- 機械工学科 ●電気電子工学科 ●応用化学科

メディア学部

応用生物学部

大学院

東京工科大学

〈蒲田キャンパス〉〒144-8535 東京都大田区西蒲田5-23-22 ☎ 0120-444-925

〈八王子キャンパス〉〒192-0982 東京都八王子市片倉町1404-1 ☎ 0120-444-903

<https://www.teu.ac.jp/>



日本工学院で学ぶ

〈専門士〉〈高度専門士〉取得

日本工学院から
東京工科大学へ編入

〈専門士〉+〈学士〉取得

東京工科大学で学ぶ

〈学士〉取得



クリエイターズカレッジ

- ◎放送芸術科
カメラマン/制作/映像編集/
音声/照明/美術コース
- ◎声優・演劇科
声優/俳優・タレントコース
- 演劇スタッフ科
舞台監督/舞台音響/舞台照明/舞台美術/
2.5次元ミュージカル制作★専攻
- ◎マンガ・アニメーション科四年制◆※
- ◎マンガ・アニメーション科

デザインカレッジ

- ◎ゲームクリエイター科四年制◆※
- ◎ゲームクリエイター科三年制★
- ◎ゲームプログラミング科
- ◎CG映像科(3年制)
- ◎デザイン科(3年制)
- グラフィックデザイン/イラストレーション/
インテリアデザイン/プロダクトデザイン専攻

ITカレッジ

- ◎ITスペシャリスト科(4年制)◆※
- ◎AIシステム科
- ◎情報処理科
- ◎ネットワークセキュリティ科
- ◎情報ビジネス科
- ホテル・観光科★

ミュージックカレッジ

- ◎コンサート・イベント科
- ◎ミュージックアーティスト科
- ◎音響芸術科
- ◎ダンスパフォーマンス科

テクノロジーカレッジ

- ◎電子・電気科
- ◎ロボット科
- ◎機械設計科
- ◎一級自動車整備科(4年制)◆※
- ◎自動車整備科
- ◎建築学科(4年制)◆※
- ◎建築設計科
- ◎土木・造園科
- ◎応用生物学科

スポーツ・医療カレッジ

- ◎スポーツトレーナー科三年制
- ◎スポーツトレーナー科
- ◎スポーツ健康学科三年制
- スポーツインストラクター/スポーツビジネス/
サッカー/テニス/バスケットボール★コース
- ◎スポーツ健康学科
- スポーツインストラクター/スポーツビジネス/
サッカー/テニス/バスケットボール★コース
- ◎鍼灸科(3年制)
- ◎柔道整復科(3年制)

★2026年度 新設予定
●日本工学院専門学校設置
◎日本工学院八王子専門学校設置
◆編入制度あり ※高度専門士付与学科
全学科職業実践専門課程認定(新設学科・コース除く)

日本工学院

日本工学院専門学校

日本工学院八王子専門学校

<https://www.neec.ac.jp/>

〒144-8655 東京都大田区西蒲田5-23-22 ☎ 0120-123-351

〒192-0983 東京都八王子市片倉町1404-1 ☎ 0120-444-700

姉妹校：日本工学院北海道専門学校



令和7年度 文の京ゆかりの文化人顕彰事業

「朗読コンテスト」開催について (予定のご案内)

主催／文京区

主管／跡見学園女子大学

協力／（一財）NHK財団

昨年11月に開催いたしました朗読コンテストでは、たくさんのご応募ありがとうございました。

多くの個人応募、団体応募をいただき、若い皆さんの「朗読」に対する関心の高さをあらためて実感したところです。

文京区では、第14回目となる「朗読コンテスト」を、下記のように開催いたします。

一人でも多くの青少年の皆さんに本選出場をしていただけるよう、昨年に引き続き部門別のコンテストを行います。

課題作家 選考中

＊昨年は「文京区・金沢市友好交流都市協定締結5周年事業」として、文京区と金沢市にゆかりのある作家から、次の6作品を課題作としました。

泉鏡花「化鳥」、五木寛之「私が哀号と呟くとき」、
徳田秋声「蛍のゆくえ」、井上靖「しろばんば」、
室生犀星「幼年時代」、桐野夏生「桜」

本選開催日 令和7年11月 ＊事前録音審査は9月上旬

部 門 1. 「青少年の部」(23歳以下)
2. 「一般の部」

課題作家も含め詳細は、令和7年7月上旬ごろに文京区、跡見学園女子大学のホームページ等で広くご案内をいたします。

皆様のご応募を心よりお待ちしております。



文京区



跡見学園女子大学
ATOMI UNIVERSITY





RITSUMEIKAN
UNIVERSITY

立命館大学 映像学部・映像研究科

最先端の設備・機材を使用した映像制作・研究を通じて
社会の変化を先取りする
創造性豊かなクリエイター、イノベーターを育成します。



Dolby Atmos®仕様の音響を備えたシアター型教室



クロマキー撮影やセット撮影が可能な実習スタジオ



3面スクリーンでVR体験が可能なラボ



画像編集やプログラミング、C.G.、ゲーム制作が可能な
実習教室

あらゆる分野をつなぎ、社会に貢献する「映像」

「映画芸術」「ゲーム・エンターテインメント」「クリエイティブ・テクノロジー」
「映像マネジメント」「社会映像」

といった5つの学びのゾーンを軸に、多様な映像分野を開拓し、
映像を通じて広く人類と社会に貢献していく人間を育成していきます。



公式 HP

立命館大学 映像学部



公式 X

映像学部生の活躍や作品などを随時更新！

立命館大学 |

<お問い合わせ>
入学センター

TEL 075-465-8351
〒603-8577 京都市北区等持院北町56-1

▷▷▷詳しくはWebで

立命館大学入試情報サイト

検索

School Life **Free Soundeffect** ▶▶ まずは、<http://www.arky.co.jp>にアクセス！ → **Schoollife Web** → **Free Soundeffect**

2025年は日本でラジオ放送が始まってから100年! 「100年後の未来へ贈るタイムカプセル」大募集!

放送!○○年企画



100年後の
未来へ贈る
タイムカプセル

テーマは

「100年後に届けたい地域の○○」

自分たちの住む地域の伝統文化や故郷の自然、また我が校の自慢など…

みなさんの視点で捉えた地域の魅力を、ドキュメントやメッセージに込めたり、收音したり、ドラマやイラスト、アニメで表現したり、動画や音声であれば表現方法は自由!
“100年後の誰か”に、あなたの思いを届けませんか?

募集要項

- エントリー部門
 - ① 映像部門 … 30秒の動画コンテンツ
 - ② 音声部門 … 30秒の音声コンテンツ
- 募集期間 2025年4月1日(火)～7月4日(金)
「NコンWEB」より提出 ▶

詳細は「NコンWEB」を
チェック!



<https://www.nhk.or.jp/event/n-con/>

応募作品の一部は、全国コンテスト決勝で発表するほか、NHKの放送やホームページでもご紹介します。
たくさんのご応募、お待ちしております!

Nコン×アルトコロニーラジオ

一緒にひらめく! ハルのクリエイターズ・セッション

「ミドリ・デイルのアルトコロニーラジオ」——それは、100年後の火星で大人気のラジオ番組。

でもなぜか現代でも、その番組が聴けるらしい!?

そこで登場するのが「100年後の未来へ贈るタイムカプセル」。皆さんの作品を詰め込んで、100年後の火星の番組に送っちゃおうって計画です!

このカプセルをすてきなものにするために、ラジオ番組風に皆さんのおたよりを紹介するページをご用意しました。

題して「ハルのクリエイターズ・セッション」!

ぜひみんなで、作品づくりのコツや悩みを話し合いましょう!

NHKの人もアドバイスにきてくれるかも?

こちらのページにアクセスしてください! ▶▶▶

<https://www.nhk.or.jp/event/n-con/altocoloni>

